

和名	分類	特徴ほか	会える場所			
モンシロチョウ	シロチョウ科	代表的なシロチョウ	ハイム (中野島)	多摩川土手 (中野島周辺)	生田緑地	その他
			○	◎	○	全国

	成虫発生時期（月）											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	○ 食草		食樹		発生回数/年				越冬形態			
	キャベツ、アブラナほか				5～7				蛹（さなぎ）			



川崎市 4月22日（2020年）アブラナに飛来



中野島 6月30日（2019年）アレチハナガサで吸蜜



中野島 ハイム 6月18日（2021年）サルビア・ファリナセアに飛来



ウスバシロチョウ 比良登山口 5月21日（1971年）レンゲで吸蜜



ウスバキチョウ 大雪山白雲沢 羽化 7月14日（1971年）

数が多いのであちこちで目立つ蝶です。
キャベツの害虫として悪名高く、稲の害虫とされるイチモンジセセリと並んで小学校の理科ですり込まれた記憶があります。
キャベツ、アブラナ（菜の花）などを食草としているので童謡の「ちょうちょう」に出てくる「菜の葉」ととまるのはこの蝶と考えるのが自然ですが、「菜の葉に飽い」ても、めったに「桜」にはとまりません。桜にとまるのは早春型のギフチョウ、ミヤマセセリ以外ではあまり見たことがないので、個人的には「桜にとまれ」という願望だろうと解釈しています。

モンシロチョウはモンキチョウと並んで代表的なシロチョウ科の蝶ですが、まぎらわしいのが「ウスバシロチョウ」、「ウスバキチョウ」。ともにアゲハチョウ科に属していて、残念ながら二種ともこの周辺ではみられません。



多摩川土手（久地） 11月8日（2021年） 土手のセンダングサ上空を飛ぶ



多摩川土手（久地） 11月8日（2021年） 時折見られるモンシロチョウの集団飛翔。土手を歩いていたらこの3倍くらいの集団が渦を巻くような飛び方で移動していた。慌ててカメラを準備して撮影したときには、既に、ばらけて解散中でその中の一群を撮ったに過ぎない。集団で飛ぶ理由はよくわからない



多摩川土手（中野島） 4月17日（2024年） 土手のアブラナに飛来



多摩川土手（中野島） 5月24日（2024年） 土手のオオアラセイトウ（また、ショカツサイ、或いはムラサキハナナとも呼ばれるが白色の個体）に飛来



多摩川土手（中野島） 9月28日（2024年） 土手のママコノシリヌグイで吸蜜



多摩川土手（中野島） 4月11日（2025年） 土手のアブラナで吸蜜中のメスにオスが接近アプローチ。メスは拒絶の意思